

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18560629

研究課題名（和文）遼・金時代の都城造営に関する建築史的研究—とくに宮殿を中心として—

研究課題名（英文）Historical research on palace architecture in the capital cities : especially during Liao and Jin dynasty

研究代表者

福田美穂（Fukuda Miho）

京都大学・人文科学研究所・非常勤講師

研究者番号：50379046

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠

キーワード：宮殿、都城、正殿、庭園、遼代、金代、元代

1. 研究計画の概要

中国では10世紀から14世紀にかけて、北方民族である遼、金、元が漢族の地に侵攻し、部分的あるいは中華の全域を支配した。いずれも本拠地から漢の版図に入りこんで統治したにもかかわらず、都城や宮殿および庭園の造営に関しては、漢族の模倣であるとするにとどまっている。ところが、本研究に先立って、元の宮殿や庭園について資料を整理してみると、たんなる漢の模倣ではなく、漢族の地に来る以前からモンゴルが持っていた、空間に対する観念が作用して造営したらしいことがわかってきた。本研究では、元に先行する遼代、金代を取り上げて、征服王朝の造った空間を解明しようとするものである。

2. 研究の進捗状況

遼代と金代の造営に関する資料の収集を行い、順調に検討を重ねてきている。検討を進めるなかで、以下の二点が判明してきた。(1)第一に、征服王朝と一括されることが多い遼、金、元は、その空間の造り方について各々独自性を持つようであるが、遼、金に関する資料は、元についての理解を前提にしないと解読できない場合が多いらしいことである。したがって、元について収集済みの資料を再検討し、また更に新たな資料も収集・検討する必要が生じた。こうして、遼、金が造営した空間に加えて、元の空間も再検討し、考察を試みている。(2)第二に、通説では漢族を模倣したとされるが、そもそも漢族の建築空間がいかなるものか、について、研究がほぼ行われていないということである。北方民族の空間が、いかに

漢化したかを解明するためには、北方民族とともに漢族の空間について考察をしなければならない。ところが、漢族の宮殿がそもそもまだよく研究されていないことがわかってきた。そこで、宮殿のうちでも最も重要な正殿に着目して比較を行うという方針をたてた。問題の本質に肉薄する適切な手段と考えたからである。こうして、正殿に限っては、北方民族だけでなく、漢族の資料を集め始めている。本研究遂行者は本研究を単なる征服王朝の研究に終わらせず、漢族をも含んだ東アジアの建築研究の一環をなすべきものと考えている。したがって、正殿の研究は本研究の次に行うべき発展的研究と位置づけ、現在は、それに向けての準備段階と考えている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

ある意味では、計画以上に進んでいる部分もある。なぜなら、次に述べる二つの事による。

(1)第一に、当初はもう少し時間がかかるであろうと思われた基本的なデータの収集がほぼ終了し、現在は、資料の検討段階に入っているからである。本研究以前に行っていた、元の造営に関する資料についても、本研究で得られた資料から、新たな角度での再検討を行うことができ、その成果として、論文3本を公表し、さらに1本は投稿予定である。

(2)第二に、本研究を進める上で、正殿について重点的に研究すべき事が判明したことである。なぜなら、漢化されたと言われる北方民族であるが、宮殿のうちでも正殿を漢族のそれと比較するによって、本質的な違いをお

りよく理解することができそうだからである。漢族の正殿についての研究は、本研究の発展的研究となるはずであるから、それにスムーズに移行すべく、北方民族以外に漢民族の正殿についても予備的に資料の収集と検討を開始した。その初歩的な成果として、シンポジウムにて唐代の太極殿に関する発表を二度を行った。

4. 今後の研究の推進方策

本研究で培った方法、すなわち考古資料や絵画資料とともに漢文史料を集めて読解する、という方法を今後も駆使して、征服王朝だけでなく漢族の空間についても研究を推進する。なぜ漢族も含めるかと言うと、本研究は、東アジアの建築空間を研究する一環であるべきと考えるからである。その最初のステップとして、すでに正殿を取り上げており、できれば今後は、正殿以外の宮殿や庭園についても、征服王朝と漢族の双方の資料を収集し分析していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①福田美穂「元朝の皇室が造営した寺院——チベット系要素と中国系要素の融合——」、種智院大学紀要第9号、2008年、p.15-30

[学会発表] (計6件)

①福田美穂「元朝皇帝の中国趣味——文宗の奎章閣と順帝の宣文閣、端本堂」建築史学会2006年度大会研究発表、2006年4月22日

②Miho Fukuda, Reconstruction in the World Heritage Site in Japan: The Main Hall of the Shuri Castle, Workshop 'Authenticity What?,' 6th May 2008, Heidelberg University (Germany)

③Miho Fukuda, Problems on Restoration of Historical Buildings in Japan, Workshop 'Authenticity What?,' 20th May 2008, Heidelberg University (Germany)

④Miho Fukuda, Conservation of Traditional Buildings Law in the Yuan Period: Maintenance and Repair of Religious Buildings in *Yuan Dian zhang* 元典章 (*Compendium of Statutes and Sub-statutes of the Yuan*), Workshop 'Authenticity What?,' 27th May 2008, Heidelberg University (Germany)

⑤Miho Fukuda, Wedding Ceremony of Emperor in *Da Tang Kai yuan Li* 大唐開元禮 (*The Rites of the Great Tang Dynasty compiled in the period of Kai yuan*), Symposium

'Palace and Rituals in East Asia,' 2008年9月21日、Deagu University (Korea) (科研「宮殿建築の空間と儀式に関する歴史的研究」研究代表者: 川本重雄教授の主宰)

⑥福田美穂「『大唐開元禮』の宮殿儀式とその空間」、2009年2月28日、於京都女子大学、シンポジウム「東アジアの宮殿と宮殿儀式」(科研「宮殿建築の空間と儀式に関する歴史的研究」研究代表者: 川本重雄教授の主宰)

[図書] (計2件)

①福田美穂 (共著)、『伝統中国の庭園と生活空間』、京都大学人文科学研究所、2007年6月

②福田美穂 (共著)、『中世アジアの住居と集落に関する総合的研究』、京都女子大学建築史研究室、2008年5月